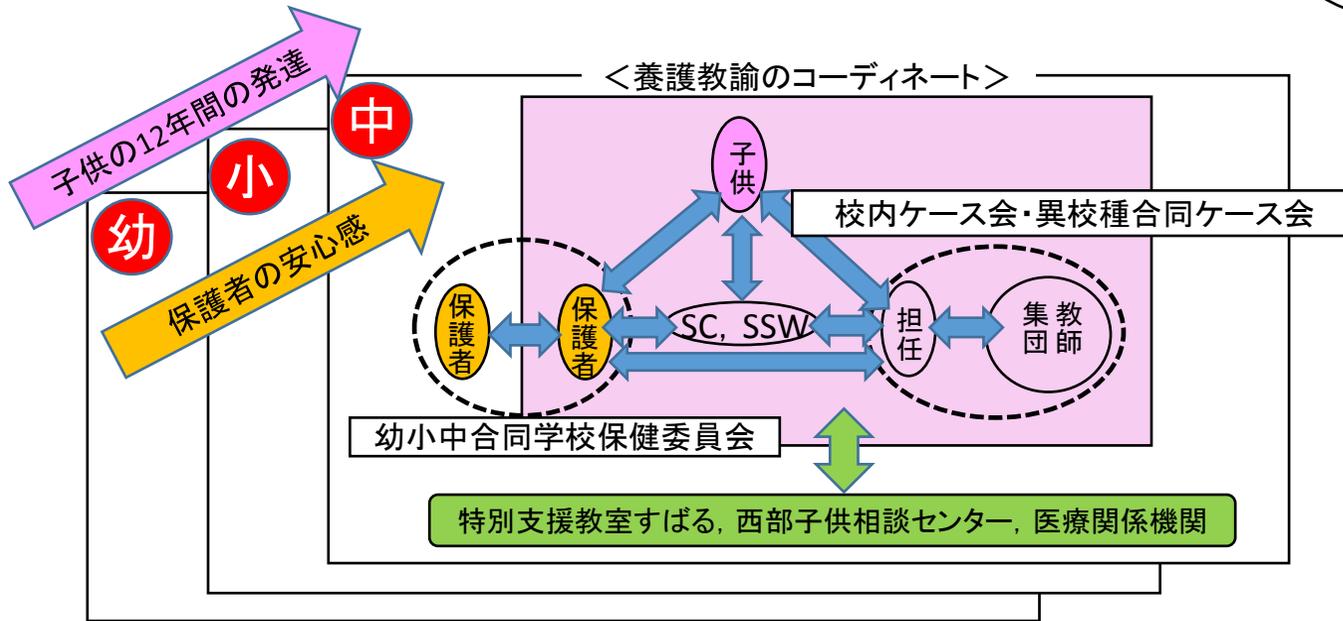
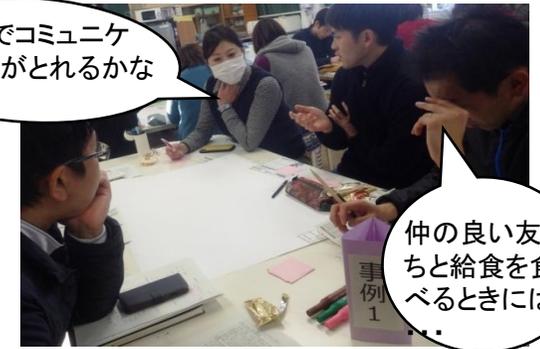


(I-③) 12年間の子供と保護者の心の支援部の構想



中学校でコミュニケーションがとれるかな



仲の良い友達と給食を食べるときには...

<異校種合同ケース会>

連絡進学する子供の事例から共に考える。幼小、小中、幼小中とそれぞれ計画することで、12年間の発達が研修できる。



〇〇さんの声かけすてきだわ。我が家でも...

<幼小中合同学校保健委員会>

幼小中の保護者と教員がSCの話に基づいて子供の心や接し方を考える。ピアサポートの効果も見られた。(年1回)

<これまでの成果>

- 異校種で研修をすることで、互いの時期の子供の心の状態とかかわり方が共有できつつある。
- 養教がSCからカウンセリングやチーム支援のすべを学び、実践化できるようになった。

<H31年度の方角性>

- ・上記のシステムの効果的活用
幼保護者座談会や朝の登園後の保護者相談による早期支援体制づくり
- ・SC, SSWの予防的活用
- ・現代課題(いじめ, 不登校, SNS, 虐待等)についてPTAとのコラボ研修の開発等
- ・12年間を貫くバトン(記録簿)の開発
- ・異校種合同事例検討会の充実(回数, 持ち方等)及び幼小中合同学校保健委員会の充実

課題

- ・異校種合同事例検討会の合理的な設定(働き方改革の視点)
- ・全職員での共有システムの開発